

第5章 今後の課題

1. 定期的な構想の見直し

本構想では、本市の歴史文化遺産を体現する様々な遺産を把握することで、市の歴史文化遺産の価値を見出す作業を行った。また、一連の作業として悉皆調査により、将来指定に相当する歴史遺産候補を確認した。本構想の実効性をより高めることは、常時新たな発見を伴う作業にも相当する。新たな遺跡の発掘や文化財の新指定、地域の様々な遺産の再認識により、本市の歴史文化遺産の層がさらに充実したものとなる。これらの作業の繰り返しと新たな発見に関する作業の継続性が、今後も必要となる。

そのために、本構想の策定後も新たな局面の際、また、一定の期間が経過した段階で、内容・指針について見直しや再確認、更新を図る必要がある。

2. 景観形成施策との連携

下野市は、東に筑波山とその山並み、北に那須連山、西に日光連山から群馬県の山並み、南に富士山を仰ぎ見る自然景観をもち、その山並みの手前は平地林と畑、思川・姿川、田川、鬼怒川など南流する河川とその周囲に広がる水田となる。

特に筑波山は本市域から西の男体山（871メートル）、東の女体山（877メートル）をきれいに仰ぎ見ることができる。古から紫峰と呼称される紫色に映える筑波嶺は、古代に「歌垣」と称される祭礼が行われ、遠方から集まる若い男女の出会いの場でもあった。富士山も有史以来、幾度か噴煙を上げているが、偏西風の影響により、当地に被害が及ぶことは無かった。幾度か火柱を上げる富士の山を遠くに見て畏怖の念に駆られたことと思われる。

この北関東の中でも自然災害の少ない固有の自然景観を将来の世代に受け継ぐとともに、市民と協働しより良い景観を創り出していくことが重要な課題でもある。歴史文化遺産は、地域の景観の「核」を構成する重要な要素として、その保存及び活用に向けた景観づくりが必要となる。本構想の策定を契機として、今後、歴史文化遺産の保存活用と本市の景観に関する計画や諸施策と連携のもと、行政・地域が一体となった景観形成に資する取組を進めていく必要がある。

3. 歴史まちづくり法へ

本構想で提示した本市の歴史文化遺産の保存活用の具現化に向けては、今後、保存管理のための計画策定など、具体的な取組が必要となる。

そのためには、まちづくりや地域づくりに関わる様々な施策との連携が重要となる。特に地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）による「歴史的風致維持向上計画」は、歴史的風致を維持するだけでなく、歴史的な建造物の復元や修理等を進めることで、積極的にその良好な市街地の環境を向上させることを目的とした

計画であり、文化財の保存と活用とまちづくりの相乗効果を期待することができる。

同計画の策定に当たっては、「歴史文化基本構想」を踏まえることが望まれており、本構想の具現化に向け「歴史的風致維持向上計画」を策定し、これに基づく事業推進を図っていく必要がある。

4. 今後必要な取組

本構想を踏まえて、文化財行政を進めていくために必要な取組を図 29 に整理した。

これらの取組を進めていくためには、市民や関連部局、周辺自治体との連携を図りながら、短期から中長期にわたり継続性を保持した事業の推進が必要となる。

方 針		短期的な取組	中長期的な取組
文化財把握の方針	継続的な調査・情報収集の実施	総合的な調査、情報収集	地域住民からの聞き取り調査
	未指定文化財の調査の実施	悉皆調査、状態把握、価値解明、記録・調査	指定・保存・管理
	文化財の一元管理の仕組み	情報の一元化、データベース作成	
文化財の保存とその方針	多種にわたる文化財の保存	文化財保存管理(活用)計画の策定	
	まとまりある文化財の保存・活用	歴史文化遺産保存活用区域の設定	関連文化財群として一体的な保存と活用の推進
	歴史的景観の保存と活用	建造物・屋外広告物の規制・誘導などの検討	ビューポイント等の整備の検討
文化財活用の方針	文化財の公開	一般公開・関連見学会の開催	
	文化財公開のための施設の利便性の向上と高いサービスの充実	文化財の公開や説明を担う施設の充実	収蔵施設の整備
	「下野学」の提唱と研究活動の実施	「下野学」の実践(市民と協働の調査・研究・情報発信)	
	文化財教育の充実、情報発信の強化	学校教育・生涯学習との連携	情報発信の強化
	まちづくり、地域産業と一体となった文化財の利活用	都市計画や景観まちづくり等との連携	観光資源として文化財の活用
	市独自の認定制度の検討	独自の認定制度制定の検討	
文化財の保存と活用を推進するための取り組みと方針	無形文化財等の継承	住民・市民団体、技術保持者の育成・保護	
	文化財に携わる人材の育成	住民・市民団体、大学や企業などと提携	
	広域連携	近隣自治体、類似文化財保持団体と一体的な活用	
	全国国分寺ネットワークの構築	サミットを活用した全国の国分寺跡管理団体との連携	
	日本遺産登録	日本遺産登録に向けた取り組みの推進	
	新たな財源の検討	企業などと提携した保存・活用に関する財源の導入検討	

図 29 今後必要な取組

【主な参考文献】

- 石橋町史編さん委員会 1984 石橋町史 第一巻 史料編(上)
石橋町史編さん委員会 1988 石橋町史 第二巻 史料編(下)
石橋町 1990 児山城址公園基本計画報告書
木を知ろう・森を知ろう会 2010 ゆうがお通り樹木マップ
国分寺尋常高等小学校 国分寺村郷土誌(写)
国分寺町教育委員会 1969 下野国分尼寺跡
国分寺町教育委員会 1971 下野国分尼寺跡史跡整備事業報告書
国分寺町教育委員会 1985 わたしたちの国分寺町
国分寺町教育委員会 1994 国分寺町の文化財
国分寺町教育委員会 1997 わたしたちの国分寺町
国分寺町教育委員会 1999 21世紀へ継承・発展する下野国分寺(1)
国分寺町教育委員会 2000 21世紀へ継承・発展する下野国分寺(2)
国分寺町教育委員会 2002 古島氏宅(旧橘屋)保存管理活用計画案
国分寺町教育委員会 2005 下野国分寺跡保存整備基本計画・基本設計作成業務報告書
国分寺町教育委員会 2005 国分寺跡及び尼寺周辺整備実施計画書
国分寺町史編さん委員会 2000 図説 国分寺町の歴史
国分寺町史編さん委員会 2001 国分寺町史 民俗編
国分寺町史編さん委員会 2003 国分寺町史通史編
下野市教育委員会 2007 オトカ塚古墳
下野市教育委員会 2008 落内遺跡第2次発掘調査報告書
下野市教育委員会 2008 下野薬師寺跡発掘調査報告書
下野市教育委員会 2010 下野市内遺跡発掘調査報告書
下野市教育委員会 2012 丸塚古墳
下野薬師寺歴史館 2013 下野薬師寺跡周辺樹木マップ
随想舎 2009 下野の明治・大正・昭和
栃木県 2003 とちぎの植物Ⅰ
栃木県 2003 とちぎの植物Ⅱ
栃木県 2003 とちぎの昆虫Ⅰ
栃木県教育委員会 1952 栃木県文化財
栃木県教育委員会 1983 栃木県の工芸品・書跡・考古資料
栃木県教育委員会 1985 栃木県の民俗芸能
栃木県教育委員会 1990 栃木県の職人
栃木県教育委員会 1992 山海道遺跡
栃木県教育委員会 1998 栃木県の民俗芸能
栃木県教育委員会 2001 栃木県の祭り・行事
栃木市教育委員会 2002 栃木の街並みⅡ
栃木県教育委員会 2008 栃木県歴史の道調査報告書第一集
栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 2011 下野国分尼寺跡

- 栃木県立博物館 1983 下野の職人展
 栃木県立博物館 1985 中世下野の仏教美術
 栃木県立博物館 1987 わたしたちの生活と家具
 栃木県立博物館 1996 稲作-用具と儀礼-
 栃木県立博物館 1998 栃木県の仏像
 栃木県立文書館 1993 目録第22集 栃木県史料所在目録(石橋町)
 南河内町史編さん委員会 1989 南河内町史資料集1 南河内町の仏像
 南河内町史編さん委員会 1989 南河内町史資料集2
 南河内町史編さん委員会 1990 南河内町史史料編5(絵図)
 南河内町史編さん委員会 1990 南河内町史資料集4 本吉田の民俗
 南河内町史編さん委員会 1991 南河内町史資料集4 台坪山の民俗
 南河内町史編さん委員会 1992 南河内町史資料集5 薬師寺の民俗
 南河内町史編さん委員会 1995 南河内町史 民俗編
 南河内町史編さん委員会 1998 南河内町史史料編2 古代・中世(補遺・附録・索引)
 南河内町史編さん委員会 1998 南河内町史通史編自然・考古、古代・中世
 南河内町史編さん委員会 1998 南河内町史だより [集約版]
 南河内町史編さん室 1989 谷地賀の民俗
 南河内町教育委員会 1986 南河内町の野仏
 南河内町教育委員会 2001 国指定史跡下野薬師寺跡ふるさと歴史の広場整備事業報告書
 南河内町教育委員会 2004 史跡下野薬師寺跡I-史跡整備にともなう調査-
 南河内町教育委員会・南河内郷土史研究会 1988 第四号郷土史会報
 南河内町教育委員会・南河内郷土史研究会 1990 第五号郷土史会報
 南河内町教育委員会・南河内郷土史研究会 1990 第六号郷土史会報
 南河内町教育委員会・南河内郷土史研究会 1993 第九号郷土史会報
 南河内町文化協会 1989 文化みなみかわち第二号